

## 論文要旨

指導教員： 岸 真理子教授  
経営学研究科 経営学専攻 修士課程  
人材・組織マネジメントコース  
渡辺 弘幸

いまや企業活動にとって、ITは欠くことの出来ないツールとなっており、その重要性はますます高まっている。そのような背景から企業は経営戦略とIT戦略を一体としてとらえ、経営にITを積極的に活用している。企業のIT化を事業視点と技術視点からみると、事業視点では、事業はITなしでは運営できないという状況からみてとれるように、IT化を進めるうえでIT部門とユーザ部門の密接な連携が重要な要素となる。しかし、一方で、技術視点でみると、導入が容易と想定されるクラウドサービスの登場は、ユーザ部門単独での導入を可能とし、IT部門との関係性を希薄にする要因と言える。企業のIT化における事業視点と技術視点による二項対立的な状況がIT化の具体的な活動であるシステム開発にどのような影響を与えているのかという問題意識に端を発している。

本研究では、IT化の具体的な活動としてシステム開発を取り上げ、その開発手法に関してはスクラッチ型とクラウドサービス型に分類し、それぞれの開発工程におけるIT部門とユーザ部門の役割を明らかにすること、また、その役割を円滑にするために実践している関係性構築の活動を明らかにすることを研究課題として設定した。

調査対象は、クラウドサービスなどの最新技術を導入し、ITを戦略的に活用していると評価されている企業を対象とし、IT部門のシステム担当者に対してインタビュー調査を行った。

設定した研究課題に対して3つの発見があった。1点目は、システム開発の工程における役割の切り替えが起きているということを明らかにしたこと。2点目は、導入が容易と想定されるクラウドサービスにおいてもスクラッチ型と同様に組織間で連携し、システム開発工程を進めていることを明らかにしたこと。3点目は、システム開発工程を円滑にするためにIT部門とユーザ部門が実践する関係性構築のための具体的な活動を明らかにしたことである。

本研究の成果は2点ある。1点目は、スクラッチ型とクラウドサービス型のシステム開発においてIT部門とユーザ部門の主導的役割の切り替えが行われる変動的主導権組織が有効であることを提言したこと。2点目は、IT部門とユーザ部門の相互情報連携による共通言語化がシステム開発に有効であることを提言したことである。

本研究の課題は、調査対象に対する量と質の面における課題はもちろんであるが、研究の視点という点では、主導的役割の切り替えがどのようにして起きているのかというメカニズムや主導的役割が切り替わること自体の意味を調査することは今後の課題と言える。